

**調査期間** 2014年10月1日～継続中  
**所在地** 秦野市横野  
**時代** 近世・中世・奈良・平安・弥生・縄文  
**調査原因** 中日本高速道路株式会社による  
新東名高速道路建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査  
**遺跡位置** 小田急小田原線渋沢駅の北方約  
3kmに位置する。



### 主な調査成果

遺跡は秦野盆地を取り巻く山地の裾野、標高230～250mに立地します。調査区は近世の段切りによって区切られた、ひな壇状を呈しています。1区の調査同様南に隣接する2区においても、江戸時代の宝永年間（1707年）に噴火した富士山の火山灰を埋めた土坑や溝による天地返し痕が調査区一面で発見されました。奈良・平安時代の調査では、1区から南西方向へ続く道状遺構が確認されました。弥生時代の調査では、1.6～1.9mもの深さの落とし穴状土坑が3基発見されました。また、縄文時代の調査では、石囲炉が発見され、住居跡と捉えましたが、明確な掘り込みや柱穴は確認できず、炉の周囲から出土した縄文時代後期の土器片や炭化物粒子の分布範囲などから、時期や規模が推定されました。



2区 天地返し痕（近世）



2区 道状遺構（平安時代）



2区 落とし穴状土坑（弥生時代）



2区 J1号住居跡石囲炉（縄文時代後期）